

近畿産業考古学会

The Kinki Industrial Archaeology Society

第 146 号

目次

1. 明石海峡大橋・橋の科学館の見学会・・・・・・・・・・ 1
2. 学会誌『近畿の産業遺産』第 20 号原稿募集・・・・ 2
3. 2025 年度年次大会（予告）・・・・・・・・・・・・・・ 3
4. 熊取町大宮橋の講演会と現地見学会・・・・・・・・・・ 3
5. 国鉄吹田操車場跡地と新幹線保存車両
・・・・・・・・寺島俊之・・・・・・・・ 4
6. JRA70 周年特別展示「世界一までの蹄跡」観覧記
・・・・・・・・林 正樹・・・・・・・・ 4
7. 学会誌の電子ジャーナル公開について・・・・・・・・・・ 6
8. 2025 年度第 2 回役員会議事録・・・・・・・・・・・・・・ 6

明石海峡大橋・橋の科学館の見学会

明石海峡大橋は、中央径間長 1,991m で世界最長の吊増として 1998(平成 10)年 4 月 5 日開通して、今年で 27 年を迎えました。現在では世界第 2 位となっていますが、その美しさは今も変わらず世界一です。

瀬戸内海での架橋構想は古くは 1899(明治 22)年の香川県県会議員の大久保謙之丞による「塩飽諸島を橋台として架橋連絡せしめば、常に風波に憂いなく……」という提案に始まります。次に 1914(大正 3)年に徳島県選出国会議員の中川虎之介が帝国議会予算委員会に鳴門架橋建議書提出、1940(昭和 15)年に内務省神戸土木出張所長のちの神戸市長原口忠次郎の鳴門架橋の提案と続きます。なお、原口氏は神戸市長時代に神戸市単独で調査費を計上し続け、海外長大橋の調査、外国人技術者の招へい・講演会の開催、国会議員への働きかけなど、架橋の実現に向け尽力されました。市議会での答弁で、「市長は白昼夢を見ている」との議員の発言に対して、市長が「人生すべからく夢なくしては叶いません」と応じたことは有名です。

いずれの提案も架橋は海峡を常時安全に渡ることと、四国と阪神地区の発展に欠かせないものとして考えられていました。架橋の大きな契機となったのは、多くの犠牲者を出した 1953(昭和 28)年の洞爺丸事故や翌年の紫雲丸事故で、ついに架橋は四国県民の悲願となり国へ陳情しました。

国鉄や建設省は 1959、60(昭和 34、35)年に架橋に関する調査を開始し、1969(昭和 44)年に 3 ルートを選定し、1973(昭和 48)年に 3 ルート同時着工を決めました。折しもオイルショックによる総需要抑制策として着工が凍結されました。翌年 1 ルート 3 橋が凍結を解除され、瀬戸大橋、大鳴門橋、因島大橋、大三島橋を着工し、以降、他の橋も順次着工しました。そして 1985(昭和 60)年には瀬戸大橋(瀬戸中央道)が開通しました。

明石海峡大橋は 1985(昭和 60)年にこれまでの道路鉄道併用橋から道路単独橋に計画変更となり、1986(昭和 61)年に着工が決まり 1998(平成 10)年に完成しました。

明石海峡大橋の現在交通量は 3 ルートの約半分の交通量受け持っていますが、順調に伸びて昨年 12 月初旬には累計 3 億台を超えました。最近の交通動向をみると、本来の本州四国間の経済活動によるもののほかに、淡路島への観光利用の影響が見られます。

明石海峡大橋の建設に際しては、地震大国日本における下部工基礎の耐震設計、主塔基礎支持地盤の支持力評価と強潮流下での基礎の施工方法、既往最長吊橋より 600m も長い支間に対する補剛桁形式選定と耐風安定性および主塔の施工時及び完成時の耐風安定性、長支間化に対応したケーブル素線の高強度化と防食、国際航路上における施工中の安全対策などの解決すべき課題がありました。

これらの課題を克服するために行われた技術開発は、直径 30 cm の土砂試料採取、鋼製ケーソン設置、洗掘対策、水中不分離コンクリート、高流動コンクリート、主塔風洞試験と制振対策、補剛桁全橋大型風洞試験と耐風対策、ケ

ーブル素線の約1割の高強度化、ケーブル送気乾燥システムによる防食技術、重防食塗装仕様、維持管理施設、兵庫県南部地震の影響と対応などです。

科学館では明石海峡大橋の建設の歴史、調査・設計・施工・維持管理に関する創意工夫などの見どころをパネル、模型、映像を用いて紹介します。

見学はさらに明石海峡大橋内に添架されている遊歩道の「舞子海上プロムナード」と長年架橋に尽力した原口忠次郎氏の顕彰碑「夢レンズ」を見学します。

秋の1日、陸から150m、海上50mに位置する舞子海上プロムナードの海上散歩と眺望を楽しんで下さい。

橋の科学館と舞子海上プロムナード等の解説は、本会会員で元・本州四国連絡橋公団、現・明石海峡大橋ブリッジワールド・ツアーリーダーの中元雄治氏をお願いします。

開催日：10月18日(土)

集合：「橋の科学館」1F ロビー、13:00

(神戸市垂水区東舞子町4番地-114)

JR 山陽本線(神戸線)「舞子駅」、山陽電鉄「舞子公園駅」下車、徒歩約5分。

見学先・行程

- ・橋の科学館 13:10～14:00
- ・舞子海上プロムナード・夢レンズ 14:00～14:40
- 解散 14:40(現地)。

費用：見学資料集代：500円、橋の科学館：500円(65歳以上350円)、舞子海上プロムナード：300円(70歳以上150円)、夢レンズ：無料。

参加希望者は10月14日(火)までに、事務局宛にメール(当メールの「件名」のままで、文面にご参加を書き加えてご返信ください)かFAXにてお申し込み下さい。

上記見学の後、希望者で兵庫県立舞子公園(1900(明治33)年、最初の都市県立公園として開園)内にある以下の施設を見学します。孫文記念館(1925(大正4)年竣工、国の重要文化財、木骨コンクリートブロック造)、旧武藤山治邸(1907(明治40)年完成、コロニアル様式木造、国の登録文化財)、旧木下家住宅(1940(昭和15)年完成、国の登録文化財、和風住宅)：14:50～16:00。

なお、見学会当日の午前中に「塔頂体験ブリッジワールド」が開催されます。現在、受付中です。希望される方は個人でお申込下さい。詳細はJB本四高速「明石海峡大橋塔頂体験ブリッジワールド」のHPをご覧ください。



写真1 橋の科学館



写真2 橋の科学館前のケーブルの実物展示

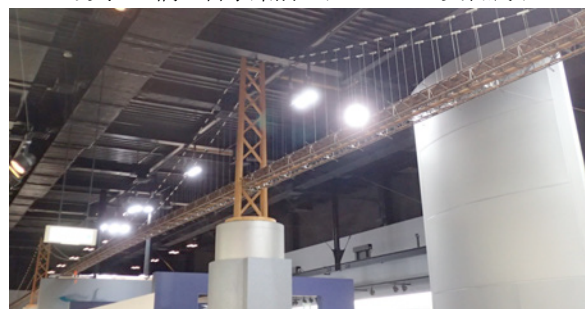


写真3 1/100(40m)全橋大型風洞試験模型(館内)



写真4 舞子海上プロムナード、孫文記念館、夢レンズ
(撮影：いずれも中元雄治)

学会誌『近畿の産業遺産』第20号の原稿募集

本会は、2005年6月に設立され、本年で創立20年の節目を迎えました。これを記念し、『近畿の産業遺産』第20号を創立20周年記念号として発行し、会員のみなさまにご投稿をお願いすることになりました。学会行事にまつわる感想や思い出、産業遺産や産業博物館・資料館などの紹介や見学の思い出などをお寄せ下さい。詳細や執筆要領は追ってご案内いたします。論文・調査報告・研究ノートなども下記の通り募集いたします。

・申込締切日：

論文(査読付き)：2025年12月31日

調査報告・研究ノートなど、論文以外：2026年2月28日

2025 年度年次大会（予告）

琵琶湖疏水は、1890(明治 23)年の竣工以来、琵琶湖の湖水を京都へ疎通し、水道、水力発電、舟運、灌漑、庭園、防火用水等、他面的な役割を通じて、京都市の人々の生活、産業や文化を支え、明治維新で衰退の危機に瀕していた京都の再生と発展に貢献しました。

今年 5 月、琵琶湖疏水の諸施設が国宝・重要文化財に指定されました。近代の土木構造物で国宝に指定されたのは初めてです。24 か所の施設が重要文化財に、うち第一～三隧道、南禅寺水路閣、およびインクラインの 5 箇所が国宝に指定されました。

これに先立って、京都市上下水道局は(株)CDI（本社：京都市中京区、調査研究などを行う人文系シンクタンク）へインクラインドラム工場の調査を委託しました。本会は、尼崎市立歴史博物館の桃谷和則学芸員を介して、同社から同ドラム工場の巻上装置（ドラム・電動機・減速機・ワイヤロープ等）や電源設備などの調査を依頼されました。

今回の年次大会は、琵琶湖疏水の産業遺産としての価値を改めて確認するとともに、インクラインのメカニズムや稼働の実状についての調査報告を受ける機会とします。

開催日：11 月 15 日(土)、見学会；10：30～、講演会・研究発表；13：30～（スケジュールは予定です）

会場：京都市国際交流会館・第 1 会議室（1 階）

見学先（予定）：琵琶湖疏水記念館・特別展示、琵琶湖疏水インクライン・ドラム工場内部など

講演は記念館学芸員で会員の久岡道武氏、研究発表はドラム工場の調査に携わった溝口孝遠氏と二階堂達郎氏にお願いする予定です。詳細は次号でご案内します。

土木遺産大宮橋の講演・現地見学会

この講演のテーマは、本紙 145 号で紹介した大阪府泉南郡熊取町で見つかった大宮橋です。元は東海道線の十三川橋梁として 1874(明治 7)年に完成し、撤去後一時保管されたのち、1931(昭和 6)年、現在地に移設・改造・転用された「大宮橋」の歴史的背景、特徴、魅力、保存と活用などについて講演と現地見学会が開催されます。講演と見学会の解説は本会会員中元雄治氏です。



写真 大宮橋（撮影：中元雄治）

- ・開催日：11 月 22 日（土）
- ・集合：熊取町公民館「かむかむプラザ」、13：00
（大阪府泉南郡熊取町野田 1 丁目 1 番 12 号）
JR 阪和線「熊取」駅下車、駅からバスに乗車。
バス 12：35 発（熊取駅前 2 番乗り場発「熊取ニュータウン」行、「役場前」着 12：38）。12 時台はこの 1 便のみ。運賃；220 円。
- ・主催者：熊取町教育委員会
- ・講座名：令和 7 年度熊取ゆうゆう大学教養楽部 ぶらり街歩き～土木遺産「大宮橋」の魅力
- 座学 13：00～13：45、演題：「熊取町・大宮橋一橋の歴史は 1871(明治 6)年に始まっていたー」
- 見学会 14：20～14：45（バス利用）～15：00
[移動] 13：45～14：25（「役場前」14：16 発ー「大宮」14：20 着）。帰りは「熊取駅」行（「大宮」発 14：47ー「熊取駅」着 14：58 のバスがあります。
- 見学場所への移動は徒歩（500m、約 7 分）、路線バスのほか、駅下にぎわい館受付：レンタサイクル(400 円/回)やバイク(500 円/回)の使用も可。見学時間の関係から徒歩またはレンタサイクル、バイクの利用を推奨。
- 駐車場：公民館無料駐車場、大宮橋周辺(徒歩 7 分) 青少年広場駐車場あり(少年野球使用のため数台のみ使用可能)。
- ・参加費用：無料（移動費用は別）
- ・定員：28 名(バスの混雑回避を考慮して絞る。申し込み順)

参加希望者は熊取町 HP でお申し込み下さい。受付開始は 10 月 11 日（土）午前 9 時～。なお、申し込みの際に現地への移動を路線バス以外で選択すれば、参加者枠拡大もあり、「中元紹介」とすれば考慮されます。
https://www.town.kumatori.lg.jp/soshiki/shogaigaku-shu/gyomu/shisetsu/kominkan/koza_club/14619.html



熊取町 HP の QR コード

図 公民館から大宮橋への経路



国鉄吹田操車場跡地と新幹線保存車両

寺島俊之

吹田市立健都レールサイド公園は、旧国鉄吹田操車場跡地の再開発によって2020(令和2)年に開設された。吹田操車場(1923(大正12)年～1984(昭和59)年)とは近隣駅から到着した貨車を先行方面別に組成したり、遠方駅からの到着便を組み替えて受託荷主の最寄り駅まで中継する施設であった。最大操車能力は約3,500両/日、一日平均取扱車数は2,663両、面積約77万㎡を誇る国内最大級の貨物操車場であった。現在の吹田駅から千里丘駅付近までの約5.5キロの区間に位置し構内の最大幅は約400mに及んだ。



写真1 旧国鉄吹田操車場跡地

国鉄本社は1983(昭和58)年に貨物輸送を操車場集結方式から拠点駅間直行方式への転換を発表、吹田操車場など全国の110操車場における分解・組成・仕分けの機能が全廃となった。吹田操車場は2013(平成25)年に敷地の半分が梅田貨物駅から移転した吹田貨物ターミナル駅に転換され、残りの半分は北大阪健康医療都市(健都)として再開発された。

健都レールサイド公園・健都ライブラリーの館内には初代新幹線車両が1両保存展示される。この車両は初代新幹線0系ラストラン(新大阪から博多 2008(平成20)年12月14日)の6号車(22-7007号車)である。車内は半分の座席が撤去され吹田操車場関連の展示パネルが並ぶ他、ラストラン当日の注意書きも残り貴重である。なお、ラストラン当日の1号車(21-7008号)は製造元である川崎車両(株)神戸本社(神戸市長田区)で保存展示される。



写真2 0系新幹線・先頭車両の前部(健都ライブラリー内)

一方、京都鉄道博物館には初代新幹線0系における代表型式の製造番号1号車が4両保存展示される。総勢3216両の新幹線0系車両の始まりと終わりを見学するのも産業の歴史を学ぶことになると思う。(取材・写真撮影:2025年7月19日)



写真3 0系新幹線・先頭車両内部の展示(健都レールサイド公園・健都ライブラリー内)

・健都レールサイド公園・健都ライブラリー

〒564-0018 吹田市岸辺新町2番3号

電話:06-6388-3800, FAX:06-6105-9102

JRA 70周年特別展示「世界一までの蹄跡」観覧記

林正樹(本会会員)

はじめに

2024(令和6)年10月18日(金曜日)に、東京国立博物館表慶館にて開催された、JRA70周年特別展示「世界一までの蹄跡」を観覧した[写真1]。

東京国立博物館における日本中央競馬会(JRA)の展覧会は初めてのことである。

これより先、2022(令和4)年の東京国立博物館創立150年記念事業の展来会「150年後の国宝展―ワタシの宝物、ミライの宝物」において、「人と馬との物語」が150年後の国宝候補として、主催者より認定され、JRAも企業部門に出展協力している。

本展覧会は、1954(昭和29)年に、競馬の健全な発展を図って馬の改良増殖その他畜産の振興に寄与することを目的に、JRAが誕生し、創立70年の大きな節目を迎える周年特別展示である。

会期は9月20日(金曜日)から10月20日(日曜日)までであった。

近畿産業考古学会会員各位とその情報を共有したく、本ニューズレターにて報告させていただくものである(注1)。



写真1 東京国立博物館表慶館

東京国立博物館

会場となった東京国立博物館は、上野公園内にあり、1872(明治5)年に開館した日本最古にして最大の博物館である。

帝国奈良博物館(現・奈良国立博物館本館)、帝国京都博物館(現・京都国立博物館明治古都館)、東宮御所(現・迎賓館)を手掛けた片山東熊の設計した表慶館をはじめ、服部時計店(現・和光)、日本劇場、大阪放送会館、第一生命館を手掛けた渡辺仁が設計した本館。産業考古学会(現・産業遺産学会)設立や博物館明治村建設に尽力し、東宮御所、帝国劇場、東京国立近代美術館、名鉄バスターミナルビル、日本学士院会館、国立飛鳥資料館、吉川英治記念館を手掛けた谷口吉郎が設計した東洋館。葛西臨海水族園、ニューヨーク近代美術館新館、京都国立博物館平成知新館、GINZA SIXを手掛け、昨年亡くなられた谷口吉生が設計した法隆寺宝物館。建設省関東地方建設局営繕部と安井建築設計事務所の設計した平成館などの建築群がある。

博物館から道路を隔てた西側には、洋画家である黒田清輝の遺産を活用して建設された黒田記念館がある。こちらは、大阪市中央公会堂、鳩山一郎邸(現鳩山会館)、ニコライ堂、旧博報堂本社、明治生命館、琵琶湖ホテル(現・びわ湖大津館)を手掛けた岡田信一郎の設計である。

展示内容

JRA 創立 70 周年を振り返り、年代毎にピックアップしたレースを東京藝術大学学生が描いた七作品の展示。近代競馬の始まり。日本における近代競馬。70 年を彩った名馬たち。芸術に見る馬。世界一までの蹄跡。1954 年から 70 年間の競馬史約 2 分の作品 5 本を映像と音による大画面で体験できる、タイムトリップ競馬史である。

昭和二十七年第五回中山競馬(第8日)出走馬一覧表

筆者にとって特に興味深かったのは、「昭和二十七年第五回中山競馬(第8日)出走馬一覧表」である[写真2]。

写真2[右] 昭和二十七年第五回中山競馬(第8日)出走馬一覧表



農林省主催の国営競馬時代の出走表で、解説には、女優で歌手の高峰三枝子の持ち馬であり、この年の桜花賞馬スウキイスーの記載のみであるが、第3競走サラ系三歳(内国産)(未出走、未勝利)に「新書太閤記」「新・平家物語」「私本太平記」「宮本武蔵」などを出した国民的作家の吉川英治の持ち馬チェリオが出走している。

チェリオは、1952(昭和27)年8月20日札幌競馬場でデビューしたが8着。その後も成績は振るわず、9戦目となるこのレースで、やっと初勝利を挙げている。チェリオの血は今も牝系に繋がっている。

第4競走では「姿三四郎」などを出した作家の富田常雄のミネノスガタが出走。

第7競走では、メイヂヒカリで初代グランプリ(有馬記念)オーナーとなった新田松江の持ち馬セカンドメイヂが出走している。

高峰三枝子は、この日4頭出しで、第4競走でスキートハート(牝)、第8競走でプレイボーイ(牡)、第9競走でタフガイ(牡)、そして第10競走でスウキイスーを出走させている。

第10競走クモハタ記念(4歳、ハンデ)には、鈴江コーポレーション創業者で横浜倉庫立て直しに尽力し、日本馬主協会連合会の初代会長となった鈴江繁一の持ち馬ツルギサンも出走している。

レースは、ダイコロンブスが勝っていて、スウキイスーは2着である。

中山2000mのコースレコードは、1951(昭和26)年5月13日皐月賞でトキノミノルが記録した2分03秒0である(注2)。

トキノミノルは、大映社長で野球球団である大毎オリオンズのオーナーにもなった永田雅一の持ち馬。ダービー馬となり、「幻の馬」とよばれる伝説の名馬である。

その他のイベント及び70周年記念展示

会期中、お馬さんとのふれあい体験として、ミニチュアポニーお出迎え・ふれあい、馬車試乗などが行われている。

東京国立博物館平成館では、挂甲の武人 国宝指定 50 周年記念 特別展「はにわ」が開催されていて、筆者はこちらも観覧した。

「JRA70 周年記念展示～人と馬の物語～」が、JRA と同じく開業 70 周年を迎える大丸東京店にて開催された(会期は5月22日から6月4日)

9 月には、京都高島屋 S.C. にて同記念展示を開催している(会期は9月12日から9月23日)。

展示のナレーションは、JRA 年間プロモーションキャラクターでもある佐々木蔵之介さんであった。

その他の巡検場所

筆者は、東京国立博物館観覧前に、浜松町からこの年、開業 60 周年を迎えた東京モノレール(1964(昭和39)年9月17日開業)に乗車、車窓から大井競馬場を眺めながら、天空橋駅まで行く。

観覧後は、東京都文京区にある都立公園の六義園の近くにある東洋文庫ミュージアムを観覧。

東洋文庫は、日本最大級のアジア研究の専門図書館であり、アジアの歴史と文化を研究するための研究所としても機能している。収集された書籍やその他の資料は、研究と出版を通じて、我が国のアジア研究の発展に大きく貢献している。

いまは無い 1924(大正 13)年竣工の初代本館・書庫は、ジョサイア・コンドルの弟子で三菱地所技師長を務めた建築家の桜井小太郎の設計である。桜井小太郎は、丸の内ビルディング旧館、東京都世田谷区の静嘉堂文庫、旧横浜正金銀行神戸支店(現・神戸市立博物館)、旧横浜正金銀行門司支店(現・北九州銀行門司支店)を手掛けている。

その他、JRA 新本部ビル(日比谷フォートタワー)内にある Gate J. 東京、立正大学品川キャンパスを巡検した。
注

注 1) 本展示は自由に撮影できるとのことであったが、「芸術に見る馬」エリアの絵画については撮影NGであった。

注 2) 現在の中山 2000m のコースレコードは、2024 年 9 月 7 日紫苑 S を制したクリスマスパレード(牝 3)の 1 分 56 秒 6 である。

引用・参考文献

- ・東京国立博物館 TOP 展示・催し物 催し物 イベント 過去のイベント JRA70 周年特別展示「世界一までの蹄跡」
https://www.tnm.jp/modules/r_event/index.php?controller=past_dtl&cid=5&id=11179
- ・東京国立博物館 TOP 展示・催し物 催し物 イベント 過去のイベント お馬さんとのふれあい体験
https://www.tnm.jp/modules/r_event/index.php?controller=past_dtl&cid=5&id=11195
- ・JRA70 周年 イベント・キャンペーン情報
<https://www.jra.go.jp/special/event70th/index.html#event19>

学会誌の電子ジャーナル公開について

科学技術振興機構(JST)より提供された 2025 年 7、8 月分のアクセス統計(クローラーによるアクセスを除外)の概要です。

- ・2025 年 7 月(公開論文数: 26) :
書誌事項へのアクセス数: 合計 273 回
全文 PDF へのアクセス数: 合計 291 回
(アクセス数が最も多かった論文: 書誌事項; 37 回, 全文 PDF; 65 回)
- ・2025 年 8 月(公開論文数: 26) :
書誌事項へのアクセス数: 合計 254 回
全文 PDF へのアクセス数: 合計 360 回
(アクセス数が最も多かった論文: 書誌事項; 26 回, 全文 PDF; 118 回)

2025 年度第 2 回役員会議事録

日時: 2025 年 7 月 19 日(土), 13:00~15:10, 対面。

参加者: 中山会長, 岡田副会長, 寺島幹事, 二階堂幹事, 溝口幹事

議事:

1. 前回役員会議事録の承認(審議)

2. 2025 年度年次大会

候補会場: 京都市国際交流会館, 候補日程: ①11 月 29 日(土), ②11 月 15 日(土), ③12 月 6 日(土), 新たに国宝・重要文化財に指定された琵琶湖疏水の価値を改めて確認。講演・発表に, (株)シー・ディー・アイの協力依頼で実施したインクラインドラム工場調査報告を含める。

3. 見学会

[前回見学会] (株)乃村工藝社万博資料室など(6 月 20 日(金)), 参加者: 19 名。

[次回見学会] 見学先: 明石海峡大橋・橋の科学館, 候補日程: ①10 月 11 日(土), ②18 日(土), 見学内容・スケジュールは中元会員と調整。

4. 学会誌 20 号[創立 20 周年記念号]原稿募集

会員投稿を中心とする。論文[査読付], 論文以外の投稿も募集(再確認)

5. 学会誌 18・19 号原稿

18 号は近日中に編集開始, 発行は 9 月中。19 号は 2026 年 3 月末までに編集を完了する。

6. 学会誌電子ジャーナル公開(報告)

7. ニュースレター 145 号

7 月下旬に発行予定。

8. 講演会

JR 叡傍駅駅舎と大宮橋(泉南郡熊取町)に関する講演会が開催される計画あり。後援等が求められれば対応。

9. 会員入会(報告)

鈴木敬二氏(メール審議済, 6 月 9 日付)

10. 調査・研究について(報告)

11. その他

煉瓦製造関係資料, 神戸北野「風見鶏の館」, 大宮橋改修, 高輪築堤の鉄道信号機などについて意見交換。
次回役員会(オンライン): 9 月 17 日(水), 19:00~

訂正

本紙前号(145 号)に掲載した「2025 年度第 1 回役員会議事録」に誤記がありましたので, 下記の通り訂正させていただきます。

【誤】2025 年 1 月 15(水), 19:00~20:25

【正】2025 年 5 月 14(水), 19:00~20:25

2025 年 9 月 30 日発行

編集 近畿産業考古学会 編集委員会

発行 近畿産業考古学会 会長 中山嘉彦

URL: <http://kinias.jp>

事務局 564-8511 大阪府吹田市岸部南 2 丁目 36 番 1 号

大阪学院大学 経済学部 中山嘉彦研究室気付

Tel: 06-6381-8434 (代), Fax: 06-6382-4363 (代)

E-mail: kinias-ec@nifty.com

会費納入先(郵便振替)

口座番号: 00950-9-150085, 加入者名: 近畿産業考古学会